

## 第二章\_5-5 だるま会館の写真展について

平成 22 年浜松市商業課から商店街活性化事業の話があった。達磨の町笠井を実現していく方法としてのアドバイスをいただいた。東海町づくり研究所の講演、富士吉原商店街視察、横須賀商店街視察を実施、笠井の町の魅力発見を写真展で演出する事を提案された。1 店 1 品運動の提案として白い達磨に自由作品を描く、健康下着、無添加食品、ふるさと土産品、子供だるま展コンテスト。懐かしの写真展。参加店に十日市の幟やタベストリーで賑やかさを演出する。3 年間の継続事業として認可を受けて、それを実行する事業に対しての補助金をうけ、着実に実行する事になった。会員のアイデア商品の中から実行できるものから行った。

だるま入りタオル。開運テッシュペーパー。十湖絵葉書、青厓絵ハガキ。俳句メモ帳。だるま定期預金。合格木札。だるま買い物袋。弁当ランチボックス。達磨キャラクターの開発など。だる弁（780 円七転八起）は値段が面白い。観音饅頭（小饅頭が時代にマッチ、7 個 500 円で買いやすい。

平成 23 年 第 1 回 「いにしえの写真展」1000 名入場。会場が老朽化で入場制限が必要だった。

畳の大広間を開場とした。

平成 24 年 第 2 回 「織物の町・笠井」笠井・豊西昭和の風景写真展。賑わい創出事業、4500 入場。

土足で入場できるように床を改修した。

「笠井達磨市保存会」ホームページの開設により、若い人に PR する。笠井小学校の協力で「笠井音頭」を作曲して、婦人の民謡同好会と協賛して町興しの一助とする。町の人々とのふれあいが大切。昭和 30 年代の航空写真の笠井地域。肴町商店会との交流が始まる。織物で戦後復興を果たした笠井の町を写真で語りあっていただく。子供のだるま絵を募集した。

平成 24 年 3 月 18 日 「笠井商店会 60 周年記念イベントを開催」 賑わい創出事業

- ① 喜多見ゆり歌謡ショー。DVD 制作して各学校や自治会へ寄贈した。軽トラ市（セルリー、チンゲン菜）養鶏直売。
- ② 笠井音頭を踊り振り付け 踊り広場で飛び入り参加歓迎。
- ③ 笠井商店会はインターネットへ加入。
- ④ 肴町発展会が特別出店。林糰製造の金山寺。楡形のうなぎパイ、豚角煮。じねんの家康おにぎりと豚汁。老舗乾物屋（伊東、松作、丸喜屋の海苔、健康食品。）
- ⑤ だるま会館は笠井商店会のあゆみの写真展

平成 25 年 第 3 回「ふるさと写真展」 笠井の魅力発見

- ① フラッグを街路灯に設置。子供だるま絵のフラッグとする。小学生のだるま絵から 80 枚作成。
- ② 町歩きマップの作成 静岡文化芸術大学、植野聡子企画制作
- ③ （未来への贈り物）東区補助事業 。実行委員会（田中充（笠井地区連合自治会長）松井敏弘、池田充義（笠井商店会）松島秀夫、村木千代八（笠井の歴史と文化を学ぶ会）田村滋治（笠井第一自治会長）門奈運東（笠井第二自治会長）写真同好会から山野肇、鈴木正昭、鈴木昭男、大木正彦、大石悟、鈴木一正で、）笠井地域の全ての行事を 1 年かけて撮影した。プリント 7500 枚をアルバム 60 冊にまとめた。1 月達磨市、成人式。4 月桜並木。7 月新盆。8 月笠井まつり。9 月 10 月秋祭り（豊作）住吉神社祭礼。貴平念仏団。二宮神社祭礼。六所神社祭礼。八雲神社祭礼。八王

子神社手筒花火。正光寺お盆。服織神社祭礼。ゆたか緑地。笠井新田祭典。豊西町運動会。笠井運動会。アローマメロン。浜名会。笠井達磨市。など多数撮影。

- ④ 第一テレビ生放映 （抽選で金達磨 10 名に贈呈） 生中継で境内は満員となった。だるま会館の写真展も満員となった。

3 回の笠井商店会主催の写真展は地域の諸団体との協賛、協力が生まれた。地域の中の商店会として認知されていた。福来寺の笠井の観音様は、昔からの伝説や言い伝えが多く、いつの時代も、賑わいはこの福来寺から生まれていた。笠井の象徴として親しまれてきた。そして、笠井の商店会は福来寺と共に歩んでいる。